

仏花<sup>ぶつか</sup>で用いられるシキミという植物をご存じでしょうか。

山を歩いていてもシキミを目にすることは少ないですが、市内の山林内でも見られる所はあり、ミヤマシキミは色々な所で林床に生えている姿をよく目にします。

この2種は同じ「シキミ」と名がついていますが、全く違う植物です。シキミはマツブサ科の高木であり、ミヤマシキミはミカン科の低木です。ミヤマシキミの葉が常緑<sup>じょうりょく</sup>で照りがあるシキミの葉に似ていることから、「シキミ」の名がついていると一般的にはいわれています。

また日本では、古い時代にシキミとミヤマシキミを区別していなかったといわれており、共に「悪しき<sup>あくしき</sup>美」と呼ばれたことがシキミの語源ともいわれています。

シキミの学名にはアニスの名がついており、ミヤマシキミの学名にはシキミの名がついていることから、この2種の区別が不明瞭だったことがうかがえます。

シキミとミヤマシキミには沢山の類似点があり、強い香りがあることもそのひとつです。仏前<sup>ぶつぜん</sup>や墓地<sup>ぼんご</sup>に供えて死臭を消すためや、土葬の墓所を野生動物に荒らされないために忌避<sup>きひさい</sup>剤の役割として植えられたとの話もあります。

更に、この2種は有毒であるところも共通しています。シキミの実<sup>み</sup>はアニサチン、ミヤマシキミの実<sup>み</sup>はシキミアニンという有毒物質を含んでいます。過去には日本からドイツにシキミの実<sup>み</sup>が香辛料のスターアニス（八角）として輸出され、中毒死亡事故が多発しました。この事件をきっかけに、日本では「シキミの実<sup>み</sup>」が植物として唯一、「毒物及び劇物指定令」により「劇物」に指定されています。シキミは実だけではなく、葉、枝、根と全体に有毒成分を含んでおり、山の中でシカの食害を受けることもなく育っています。ちなみに世界中で香辛料として利用されているスターアニスは、トウシキミという有毒成分を含まない亜熱帯由来の種類です。

日本のシキミは、美しい花を咲かせることから、万葉集などの和歌に「しきみ」が詠まれた歌が多数あり、日本人との関わりの深い植物だったことが分かります。

(杉野)

**森林レンジャーあきる野** 市が取り組んでいる「郷土の恵みの森づくり」を進める専門集団。尾根道の補修や景観整備の調査、計画立案等を地域と協働で実施。市内に生息する動植物の調査や、滝・巨木等、地域資源の掘り起こしも行っている。

**問合せ** 環境政策課環境の森推進係



シキミの花